

2008.5.24(土) 每日新聞 夕刊



巣箱内の母フクロウとひな（残り1羽は母フクロウのおなかの下に潜り込んでいて見えない）＝我孫子市鳥の博物館提供

巣箱の中24時間生中継

千葉の博物館

フクロウのひなすくすく

千葉県・手賀沼畔の森にすむフクロウの子育ての様子を、我孫子市鳥の博物館（同市高野山）が小型カメラで生中継することに成功した。館内のテレビで放映、ホームページでも公開している。

同博物館は06年春、「都市近郊の身近な自然を知つてもうおう」と、隣接する山階鳥類研究所と協力し、周辺の森に小型カメラ付きの巣箱を設置した。07年春、大型の巣箱（高さ70センチ、縦横各45センチ）

の一つにフクロウのつがいが入ったのを確認した。巣箱の床に木片を敷くなど営巣しやすいよう工夫したところ、今年4月8日、卵3個が確認された。今月10日、巣箱内に割れた卵の殻があり、3羽が孵化したことなどが分かった。

フクロウは夜行性で、3羽のひなは夜間に親が運んだネズミやカエルを食べてすぐすく成長、6月半ばごろ巣立つとみられる。撮影は当初、繁殖に影響を与えないよう日中に限ってきたが、今月15日からは24時間に。石田守一館長は「フクロウは身近に生息しているが、夜行性で目に見えることが少ない。観察の良いチャンスで、市民に楽しんでほしい」と話す。

同博物館（☎04・7185・2212）は月曜休館。入館料300円。
【武田良敬】